

初めてオンライン定例会を開いた光学
区町内会連合会



オンラインで町内会会合

デジタル技術を活用して、地域活動の充実を図る福山市の光学区町内会連合会が、2カ月ごとに開いている定例会をオンライン化した。新型コロナウイルスの感染拡大で、連合会の取り組み方針を話し合う会議が中止や延期に追い込まれ、活動が停滞する事態を防ぐ。

連合会を構成する各町内会の会長ら19人が2月21日夜、試行的にビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」を使って定例会を開催。初

福山・光学区連合会

コロナ禍の活動停滞防ぐ

のオンライン会議は、光公民館(草戸町)の3部屋にメンバーが分散する形で、実際にズームでやりとりができるか試した。

花谷忠厚会長(67)がコロナ禍を踏まえ、「これまでのように会議室に集まって話し合えるか難しい状況。自宅から会議に参加できるようにしたい」とあいさつした。

定例会では、通信アプリ「LINE(ライン)」を活用して、きめ細かく防災情報や不審者情報、イベントの急な予定変更を配信する取り組みを4月

に始める計画を説明。学区内の各種団体の会議もオンライン化を図っていく方針も確認した。

光学区では、デジタル化で地域の動きを住民に「見える化」する取り組みを進める。

町内会など各団体に構成するまちづくり推進委員会は昨年、ホームページを開設して同学区のお知らせを発信している。(民直弘)